

第43回日本ITU協会賞 「功績賞」「国際活動奨励賞」受賞

2015年5月15日の「第47回世界情報社会・電気通信日のつどい」において、ネットワーク部の古川 憲志氏が一般社団法人日本ITU協会賞「功績賞」を受賞しました。功績賞は、世界情報社会サミットにおける基本宣言および行動計画の実現を含むITUの活動、または我が国のITU諸活動に貢献し、その他情報通信および放送の発展に寄与し、その功績が著しい者に贈られます。

また同日、先進技術研究所5G推進室の永田 聡氏、先進技術研究所の仲 信彦氏、無線アクセス開発部の梅田 大將氏が日本ITU協会賞「国際活動奨励賞 功績賞対象分野」を受賞しました。国際活動奨励賞は、功績賞および国際協力賞に該当する諸活動にすでに参加し、今後これらの領域において継続して寄与することが期待される者に贈られます。

古川氏は、1996年から長年にわたりITU-R (International Telecommunication Union-Radiocommunication sector) などにおいて、携帯電話 (IMT: International Mobile Telecommunication)、移動衛星に関する多くの標準化活動に貢献しており、特にWRC (World Radiocommunication Conference) *1での我が国への周波数割当て、IMT関連無線通信規則改定などに大きな貢献をしていることが認められ、功績賞を受賞しました。

永田氏は、3GPPにおけるLTE/LTE-Advanced標準仕様策定に対し、多くの技術提案をするとともに、RAN1 WG議長、副議長として、UMTS (Universal Mobile Telecommunications System) *2/LTE/LTE-Advanced無線アクセス技術仕様の策定に多大な貢献をしていることが認められ、国際活動奨励賞を受賞しました。

仲氏は、一貫して移動通信用音声・音響符号化の技

術開発、標準化に貢献し、LTE向け音声サービスの拡大を予見して新たな標準化の方向を提唱、移動通信で超広帯域音声と音楽を同時に扱える符号化への要求仕様、選定・評価方法、圧縮技術など、多岐にわたって寄与したことが認められ、国際活動奨励賞を受賞しました。

梅田氏は、3GPPにおけるLTE/LTE-Advanced方式に関する仕様策定において、グローバルハーモナイズを考慮した無線仕様策定を多数実現するとともに、ラポータ*3を務め、仕様策定促進に多大な貢献を行っていることが認められ、国際活動奨励賞を受賞しました。

- *1 WRC: 各周波数帯の利用方法、衛星軌道の利用方法、無線局の運用に関する各種規定、技術基準などをはじめとする国際的な電波秩序を規律する無線通信規則の改正を行うための会議で、各国主管庁およびITUに登録している事業者などの関係団体が出席し、通常3~4年ごとに開催される。
- *2 UMTS: 第3世代移動通信システム、ドコモ採用のW-CDMA方式のほか、TD (Time Division) -CDMA方式などがある。
- *3 ラポータ: 例えば、LTEなどのWork Itemのような検討対象項目に対して、進捗の管理、議論のとりまとめ、議論結果をキャプチャしたテクニカルレポートのエディタなどを務める3GPPの役職。

